

第4学年「図画工作」学習指導案

授業者 堀井 武彦

2月14日（金） 2階アトリエ 9：00～9：40

1 題材名 くりかえしていたら ひらめいた！（造形遊びをする）

2 題材について

本学年の子どもたちが9月末に経験した造形遊び（児童教育動 35 号参照）は、ファミリーで協力して活動することに着目した活動であった。本校研究では、複数人が協力して行う活動の質について、任意の役割分担をする「協同（cooperation）」と異質な他者との衝突を超えた先に見出す合意形成の緊張の状態を含意する「協働（collaboration）」を使い分けている。しかしながら、9月末の活動では、日常の対人関係や場（材料や行為の特性）の介在を通じた偶然性によって「キョウドウ」が生成される様子が印象的であった。そして、その際の授業者の意図的な働きかけが非常に難しいことを確認した。そこで、活動形態に着目するのではなく、造形活動の必然性から生じる活動形態のあり方に着目して、そこで発揮される「アートメタ認知」を読み解くことを意図して本題材を設定した。

本題材は、題材名の通り穴あけパンチで穴をあける行為を「くりかえしていたらひらめいた」ことから表現したり、遊んだりする活動である。活動の必然性を優先するために活動形態は、個人でも複数（ファミリーの仲間限定）でも可とした。「キョウドウ」の対象をファミリー内に限定するのは、穴をあける行為に没頭して「くりかえす」ことを促すためである。常に他者の

3 学習指導計画（1時間目／全1時間）

- | | |
|--|------|
| 第1次 活動の概要を知る。 | …1分 |
| 第2次 穴をあける行為を続けながら思い付いたことをもとに表現したり、記録したりする。 | …30分 |
| 第3次 記録をまとめたり、見合う活動を通して他者の活動との違いに気付いたりする。 | …9分 |

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

・穴をあける行為をくりかえしながら思い付いたことをもとに、絵や立体に表したり、遊んだりすることを楽しむ。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 穴あけパンチで穴をあける活動から思い付いたことをもとに活動することを知る。	・穴あけパンチを操作する触覚を楽しみながら、ひらめきが発現する時を待つ。 ◇用具：穴あけパンチ、はさみ、スティックのり ◇材料：画用紙 (赤・黄・青・白、紺色全紙大)
2 押しぬいた紙片や穴が並ぶ紙の特徴を生かした造形行為を様々に行う。	
【平面的な活動】・押しぬいた紙片を並べて任意の図（絵や模様）をつくる。 ・穴があいた紙と他色の紙を組み合わせて再構成する。 ・セロテープに直接紙片を貼り付けて装飾材のような仕様にする。 【立体的な活動】・紙や台紙を切り抜いたり、組み立てたりして立体に表す。 【その他の活動】・押しぬいた紙片を集めて並べたり、積み上げたりする。	
3. よさや美しさを感じた活動は、そのつど画像に記録する。	・共同活動の可否は状況に応じて判断する。 ・必要に応じて多様な活動の共有を促す。
4. 他者の多様な活動を共感的に受けとめたり、自分の活動をふりかえったりする。	